

12 好酸球性食道炎

疾患の定義・特徴

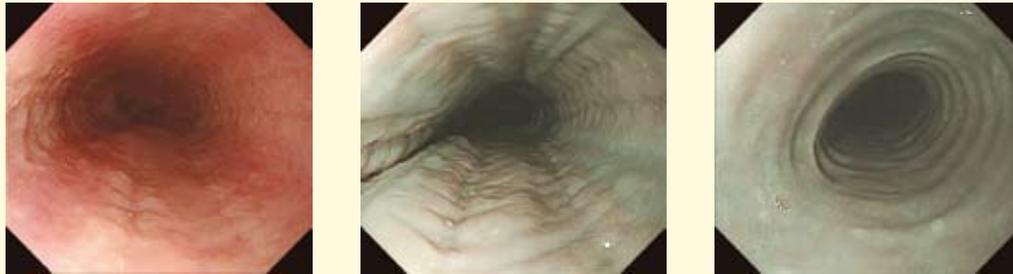
- 嚥下困難や食物のつまり感を主訴とするアレルギー性食道疾患である。
- 縦走溝，リング・気管様，白斑，狭窄，粘膜剥離などの内視鏡所見を伴う。
- 生検にて食道上皮内好酸球浸潤を少なくとも1高視野で15～20以上認める。
- GERDなど他の好酸球浸潤をきたす疾患の除外が必要である。
- 中年・男性に多く，しばしばアレルギー疾患合併を認める。

リング状・縦走溝を認める典型的症例



リング状所見と縦走溝が混在している。生検では高視野で上皮内好酸球浸潤を多数認める。

縦走溝，気管様，白斑を伴う症例



比較的明瞭な白色～クリーム色の小隆起と縦走溝を認める。NBIにて明瞭となる。上部では気管様所見を認める。

白斑と縦走溝を認める症例



白斑と縦走溝を伴う。FICEにて明瞭となる。縦走溝の中に横軸方向に段差が観察される。

狭窄を伴う症例



粘膜下層の線維化により狭窄をきたす。EUSでは第1～3層の肥厚を認める。

ほぼ正常の内視鏡像の症例



嚥下困難が主訴，内視鏡的に正常であるが，生検にて上皮内好酸球浸潤を55/HPF認めた。

PPI反応性食道好酸球浸潤



下部に粘膜傷害あり，また中部にかけて縦走溝を認める。PPIにて自覚症状は改善した。

診断のポイント

- 難治性GERDの鑑別診断の一つとして常に念頭に置く。
- 嚥下困難症例では，内視鏡的に所見に乏しくても積極的に生検すべきである。
- 特徴的とされる内視鏡像は，特異度は高いが，感度・陽性的中率は低い。
- 生検部位と個数に関してはコンセンサスはないが，6個以上を推奨する。
- PPIが有効なPPI反応性食道好酸球浸潤という疾患概念も提唱されている。

(藤原靖弘)